

---

# 四季の移り変わり

ニケラ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

四季の移り変わり

### 【Nコード】

N3274BA

### 【作者名】

ニケラ

### 【あらすじ】

わたしとぼくとあたしとおれのはなし

四話完結予定

## 春から夏へ（前書き）

処女作です。間違いがあればなるべく優しく教えてくださったら嬉しいです。

## 春から夏へ

ただ、好かれたかった。

だから彼の好きなバイオリンやサッカーの勉強だった。

だって彼は趣味が合う人が好みだっていったもの。

化粧臭いのは嫌だって呟いていたから化粧しなくても綺麗でいれるようにがんばったし黒髪のほうが綺麗だって微笑んでたからがんばって手入れしたし、

頭の悪い女の子は苦手って話していたから勉強だってがんばった。

甲高い声だって嫌だっていったから落ち着いた話し方をするようにがんばった。

な の に どう し て

その子はバイオリンよりエレキギターのほうがすきって  
サッカーより野球がすきって  
茶髪だし化粧だって濃くって  
勉強だってぜんぜんできないし  
こえだってかんだかいのに

ああ、そうか

わたしでは、だめなのか

わたしのめのまえでかれとかのじょがてをつないでわらいあっている。

くるしくてへたりこんだわたしのめのまえにはつとでまめだらけになったてがだされた。

「俺じゃだめなのか」

え、

「ずっと、お前だけ見てた」

「かわりでいい」

「俺の　　になつてくれないか？」

ギターのことなんてわからないよ？

「いい」

ちやぱつがが好きなんじゃないの？

「黒髪のほうが好きだ」

可愛げとかないよ？

「馬鹿よりぜんぜんいい」  
声だって、

「お前の声が好きだ」

…おいていかないでね。

「勿論だ」

そのてにそつと私のを重ねて、

「好きだ。ハル」

「わたしも、たぶん好きだよ。フユキ」

## 春から夏へ（後書き）

ありがとうございました。

夏から秋へ（前書き）



## 夏から秋へ

僕には幼馴染みがいる。正反対の幼馴染みが

僕はサッカーが好きだ。

あいつは野球が好きだ。

僕はバイオリンをひくのが趣味だ。

あいつはギターが趣味だ。

容姿だってだいぶ違う。

僕は金髪で眼が青い。（僕の母はフランス人だ）

あいつは黒髪で眼も黒い。（あいつの両親は生粋の日本人だ）

女子の趣味も違う。

僕が好きなのは、清楚な可愛い女の子って感じの子だ。

あいつはたしか、茶髪の今時の女の子が好きだってこの間言っていた。

正反対、それでも僕らは仲のいい友人だった。

はずだった。

今は自信を持って言えない。

僕はあいつが

うらやましくてたまらなかった。

あいつになりたい。

とって代わりたい。

段々と友情が羨望に、そして憎悪になっていった。  
あいつは全然悪くない。

でも、あの子に好かれるあいつがうらやましかった。

僕の好きな子はあいつが好きだ。

清楚じゃない。好みとは反対の、そう、あいつの言っていたあいつの好みのような子だ。

頭は、正直、あまり良くない。  
化粧だって濃い。

趣味だつて合わない。

でも、底抜けに明るくて太陽みたいだ。  
化粧だつてよく考えたら可愛いくなりたいていう努力の証だ。  
趣味も、まあ合わなくてもいい。

彼女という存在に圧倒された。  
恋愛は惚れたら負けだと実感した。

でも、彼女は僕を見ない。

きつとあいつとくつついてしまうんだ  
だってあいつはあんなのが好きだつて

「ねえ、ナツキくん。」

え？

「あたしとさあ、」

「付き合つてくれない？」

え？

「アキカさん、好きだよ。」

「ほんとに？うれしいな」

「あたしはわかんないよ、ナツキくん」

「え？何か言った？」

「ううん。なんでもないよ。」

## 夏から秋へ（後書き）

ありがとうございました。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3274ba/>

---

四季の移り変わり

2012年1月8日22時45分発行